

世界の国を知る  世界の国から学ぶ

わたしたちの地球と未来

 ボスニア・ヘルツェゴビナ 



【表紙の写真】

(左下)

ボスニア モスタルの石の橋
「平和の象徴」として世界文化遺産に
登録されました

(右上)

民族衣装を着たボスニアの少女



ボスニア・ヘルツェゴビナ政府観光局

Contents

- 01 こんな想いを込めました!
- 02 こんな教材です!
- 03 なぜボスニア・ヘルツェゴビナ?

第1章 ボスニアってどんな国？

= 平和に向かって歩き始めた国 =

- 05 クイズ100人に聞きました!
- 07 ハートの形の国ボスニア・ヘルツェゴビナ
- 11 ボスニアにまつわるウソ?ホント?
- 13 ボスニア料理ってどんな料理?
- 15 「ボスニア・ヘルツェゴビナってこんな国」ふりかえりシート

第2章 へえ～！ボスニアと日本

- 17 ボスニアの平和を応援する日本の取り組み

第3章 一緒に考えよう！こんな課題

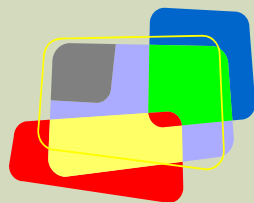
- 21 気がついたら戦争が始まっていた
- 23 参考資料 ボスニア紛争
～ どうして起こってしまったのだろうか?～
- 24 参考資料 2つの橋の物語
- 25 「地球の未来を創る」シート

第4章 そして未来へ

- 27 『多文化共生社会』ってどんな社会?
- 28 号外! 号外! 20年後の新聞です
- 29 多文化共生社会と地球的課題

参考資料

- 31 目で見るボスニア・ヘルツェゴビナ
- 33 ボスニア・ヘルツェゴビナ地図
- 35 参考文献・データ等の出典
- 35 2008年度教材作成チーム



こんな想いを込めました！

愛知万博で体験した国際交流の楽しさを広げていきたい！つなげていきたい！
そんな想いが本書作成のきっかけでした。



国際交流は楽しい！

『世界大交流』をうたった2005年愛知万博。120カ国の文化や生活に触れたり、いろいろな国の人たちと話をしたりすることは、とても楽しい経験でした。「国際交流」は決して難しいことではありません。自分の視野を広げ、他者を尊重する力を育むことにもつながり、そうした力は多文化共生社会を実現するためにも欠かせません。そんな国際交流の楽しさ、大切さを愛知から発信していきたいと考えました。

人の顔が見える教材をつくりたい！

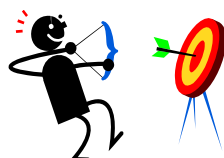
「日本ってこんな国」「日本人ってこんな人」って決めつけられて違和感を感じた経験はないでしょうか？ 国全体の概要を知ることもちろん大切ですが、何となく持っている固定概念をもしかしたら裏切るような、「へえ～、こんな一面もあるんだ」と意外に思えるような、そんな教材をつくりたいと考えました。そうすることによって、「わたしたちが世界のことをいかに知らないか」ということや「普段見聞きしている情報はほんの一面にすぎない」ということに気づいてもらうとともに、そこに住んでいる人々を身近に感じてもらえたらいいなと思います。

世界の国から学ぶ！

どんな国もいいところ、悪いところ、いろいろな面を持っています。何が幸せなのか、「豊か」の基準は何なのか、といった価値観もさまざまです。例えば、途上国だから「かわいそうな国」ではありませんし、紛争があるから「こわい国」でもありません。日本にもたくさん問題があります。様々な国の、特にすばらしいところを知ることによって、対等な関係をつくとともに、自分たちの地域や生活をふりかえることができると考えました。国にも人にも文化にも優劣はないことを踏まえて、お互いに学び合える関係ができればいいなと思います。

未来を創るのはわたしたち！

地球はさまざまな課題を抱えています。環境や人権や平和など、日本も無関係ではありません。地球に住む一人ひとりがそれらの課題に取り組まなければ、よりよい未来を創ることはできないのです。そしてよりよい未来を創るためには、今、地球で起きていることは何なのかを知り、それが自分とつながっていることに気づくことが大切だと考えました。本書に掲載されていることは、地球で起きていることのほんの一部ですが、それらを通して感じたこと、気づいたことが未来につながっていくといいなと思います。



こんな教材です！

次のようなことを考えて作りました。

ファシリテーター・先生用の教材です

内容については、小学生高学年以上を対象としていますが、本書自体は、ファシリテーター(参加型プログラムの進行役)や先生に使っていただくための教材となっています。ことば遣いなど、対象に合わせて直してください。必要に応じてコピーし、配布していただいても結構です。

参加型で使うことができる教材です

情報・知識を聞くだけでなく、考えたり、作業をしたり、話し合ったりすることによって楽しく学べるとともに、その中で何かを感じたり、気づいたりしてもらえようようなプログラムにしました。基本的には4～6人のグループに分かれて行うプログラムになっています。必ずしも正解があるものばかりではありません。参加型のプロセスを大切にしてください。

きっかけづくりの教材です

本書で紹介したのは、ボスニア・ヘルツェゴビナのほんの一面です。本書だけでボスニアのすべてがわかるわけではありません。ボスニアに親しみを感じ、関心をもってもらうと同時に、自分たちの地域をふりかえり、地球的課題を考えるきっかけとして活用してください。

使い方は自由です


とはいうものの、使い方は自由です。もちろん、最初から順番にやる必要はありません。対象に応じてプログラムの進め方を変えたり、時間的な条件によって短縮したりするなど調整することもできます。参加者にあわせてどんどんアレンジして使ってください。巻末に参考資料を掲載していますので、最新のデータが必要なときや、もっと深めたいときは、活用してください。












カラーデータ・写真はダウンロードできます

カラーデータ・写真については、(財)愛知県国際交流協会のホームページからダウンロードできます。ただし、著作権は出典元または(財)愛知県国際交流協会に帰属します。学校関係や国際交流団体等が教育の目的で非営利に使う場合に限り、活用していただけます。

本書の構成とマークの見方

基本的に、1項目2～4ページで掲載しており、実際に使っていただくプログラムと、それに関する説明とで構成されています。それぞれのプログラムの「ねらい」も記載していますので、参考にしてください。なお、本書で使っているマークの意味は次の通りです。



	参加型のプログラムです。 必要に応じてコピーし、配布してください。		プログラムで模造紙を使います。
	プログラムに関する説明です。 ファシリテーター・先生用です。		プログラムでマジックを使います。
	プログラムのねらいです。		プログラムで付箋を使います。
	プログラムに使う資料です。 必要に応じてコピーし配布してください。		プログラムでA4用紙を使います。 裏紙等を活用してください。
	コピーし、カード等に切り離して 使ってください。		データ等の出典です。
			写真の撮影者です。

なぜボスニア・ヘルツェゴビナ？

始まりは、2005年愛知万博「一市町村一国フレンドシップ事業」

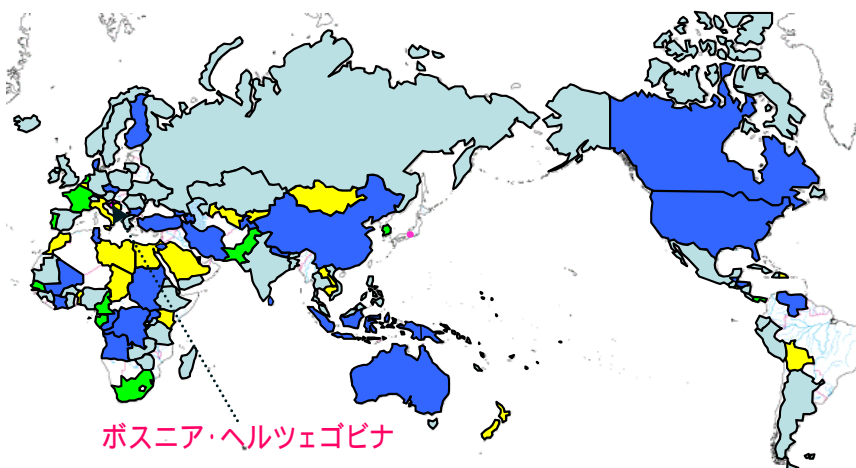
2005年に開催された愛知万博の会期中愛知県内の市町村は、公式参加国120カ国(日本を除く)のホームシティ・ホームタウンとして、地域ぐるみのホスピタリティあふれる受入を行いました。この取り組みを「一市町村一国フレンドシップ事業」と言います。このフレンドシップ事業では次の5つのことをねらいとしました。

- 世界各地から訪れる人々に日本や日本人を理解してもらう
- 迎え入れる地域の人々に、交流を通じて、世界には多様な価値や文化があることを知ってもらう
- 万博会場内だけでなく、地域でもてなすことで、万博を相互交流を深めるための大きな舞台とする
- 地域文化を世界に発信することにより、各地域が自らの文化を再発見し、地域のあり方や発展の方向性について学ぶ機会とする
- 地域に根ざした「人」と「人」との交流を万博終了後も引き継ぎ、世界の人々をつなぐ架け橋としてさらに発展させる

この「一市町村一国フレンドシップ事業」をさらに広げ、つなげていこうと作成したのがこの教材です。そして、ボスニア・ヘルツェゴビナのホームシティは、一宮市でした。



愛知万博 / ボスニア・ヘルツェゴビナ館



- ・本教材
- ・2009年度教材作成予定の国
- ・2008年度教材作成の国
- ・2007年度教材作成の国
- ・愛知万博公式参加国

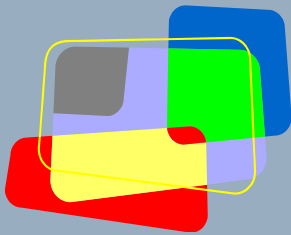
2009年度作成 予定 (32カ国)	アゼルバイジャン共和国 アンゴラ共和国 アメリカ合衆国 イラン・イスラム共和国 インドネシア共和国 ウガンダ共和国 オーストラリア連邦 カナダ グルジア コートジボワール共和国 コンゴ共和国 サントメ・プリンシペ民主共和国 スーダン共和国 スリランカ民主社会主義共和国 タジキスタン共和国 中華人民共和国 チュニジア共和国 デンマーク王国 トルコ共和国 ネパール連邦民主共和国 パプア・ニューギニア独立国 フィンランド共和国 ブルガリア共和国 ベネズエラ・ボリバル共和国 ペリズ ボスニア・ヘルツェゴビナ ホンジュラス共和国 マーシャル諸島共和国 マリ共和国 ヨルダン・ハシミテ王国 リトアニア共和国 ルワンダ共和国
2008年度作成 (20カ国)	イタリア共和国 ウズベキスタン共和国 エジプト・アラブ共和国 エルサルバドル共和国 カンボジア王国 キリバス共和国 キルギス共和国 ケニア共和国 サウジアラビア王国 大リビア・アラブ社会主義人民ジャマール・ヒリーヤ国 チャド共和国 ドミニカ共和国 ニュージーランド フィジー諸島共和国 ベナン共和国 ベルギー王国 ボリビア共和国 モロッコ王国 モンゴル国 ラオス人民民主共和国
2007年度作成 (10カ国)	オランダ王国 カメルーン共和国 ガボン共和国 セネガル共和国 大韓民国 パキスタン・イスラム共和国 パナマ共和国 フランス共和国 ポルトガル共和国 南アフリカ共和国



第1章

ボスニアってどんな国？

= 平和に向かって歩き始めた国 =



クイズ100人に聞きました！

① ところで、みなさんはボスニアのこと、どのくらい知っていますか？

① 次の地図で、ボスニア・ヘルツェゴビナはどこだと思いますか？ この辺と思うところに印をつけてください。



② ボスニア・ヘルツェゴビナについて知っていることはありますか？
人、物、都市名、イメージ...何でもいいので書き出してください。

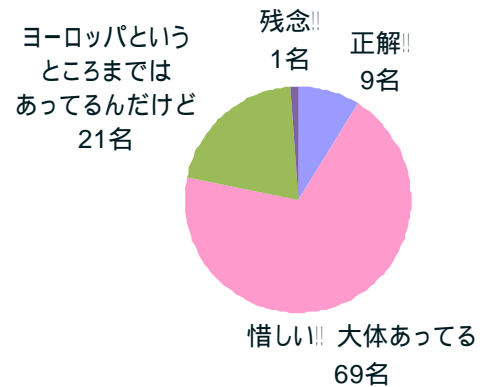


同じ質問を一宮市の中学生100人に聞いた結果です。



まずは「知らないこと」に気づくことから始めましょう。

ボスニア・ヘルツェゴビナはどこ？



何となくヨーロッパのあたりということはわかってても正確にどこと答えるのは難しいですね。中学生のこの結果はお見事です!

ボスニア・ヘルツェゴビナといえば...?

ユーゴスラビアから独立(79) / サラエボ(75) / ヨーロッパにある(26) / ボスニア(都市名(?))(19) / そばにブルガリアがある(14) / 温帯(9) / オシム元サッカー日本代表監督(7) / 黒人(5) / 気候は寒い(5) / 地中海に近い(5) / イタリアの近くにある(4) / 内戦が起きた(4) / 白人(2) / すごしやすい気候(2) / 地中海性気候(2) / 内戦が多い(2) / 平和(2) / 国旗が青で星がある(2) / 明るい人たち / ヒスパニック / ボビー・オロゴン / 口調が優しく、優しい目をしている / 国旗に緑がある / 教育制度があまり整っていない / EUに加盟している / 独立国 / かつての植民地 / 暑い国 / 偏西風の影響で暖かい / 降水量が多い / 穏やかな国 / 山がきれい / 面積が狭い / 日本より小さい / 北半球 / 気候は晴れ /



ハートの形の国ボスニア・ヘルツェゴビナ

① ところで、みなさんはボスニアについてどのくらい知っていますか？
どんなイメージを持っていますか？

- ① 下の世界地図の中で、ボスニア・ヘルツェゴビナはどのあたりに位置するでしょう？
A～Eの中から選びましょう。



- ② では、次の写真（ P.8）の中で、みなさんがボスニアに対して持っているイメージに一番近い写真はどれですか？ 3枚選んで、その理由をグループの中で話し合ってみましょう。
- ③ 写真の説明を聞いてどうでしたか？ 自分が持っていたイメージと実際のボスニア・ヘルツェゴビナは同じでしたか？ 違っていましたか？ 感想を話し合ってみましょう。

A



B



C



D



E



F



G



H



I

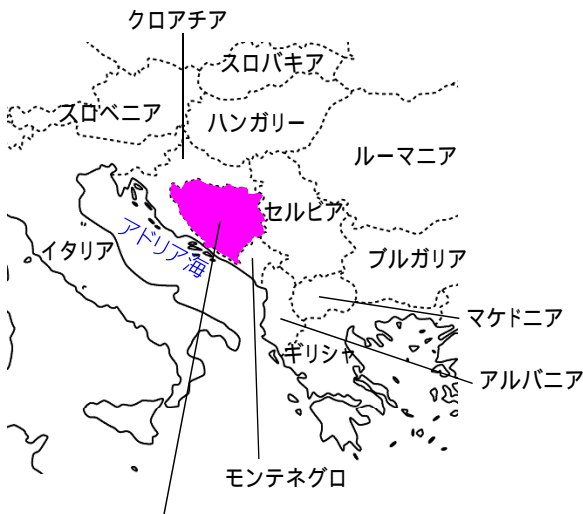


J





1 A



ボスニア・ヘルツェゴビナ

ボスニア・ヘルツェゴビナは、東ヨーロッパ、バルカン半島の北西に位置する共和国です。

北部と中央部は「水」を意味する「ボサナ」から名付けられた『ボスニア地方』、南部はドイツ語の「公爵」から名づけられた『ヘルツェゴビナ地方』と呼ばれ、それがつながって国名になっています。

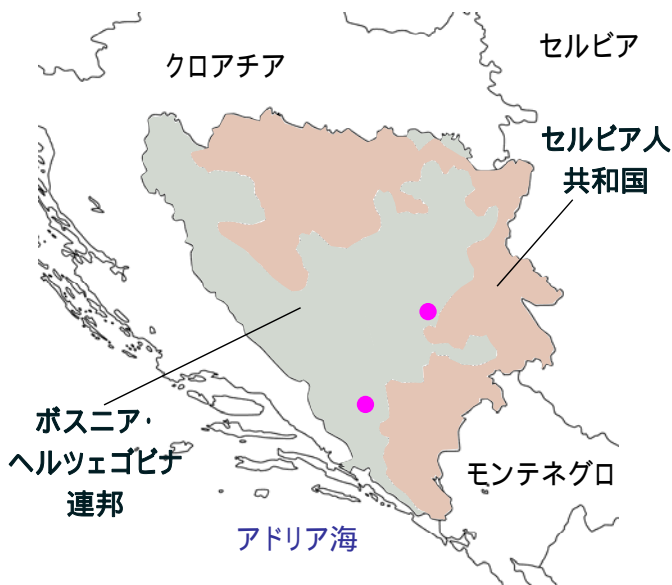
国土の大部分は山地で森林の多い国です。国土の中央には、ディナル・アルプス山脈があり、2000m級の峰が連なっています。アドリア海に面した海岸線は10km足らずで、港もありません。

ボスニア・ヘルツェゴビナの首都サラエボは、標高600mに位置する盆地で、夏は乾燥して暑く、冬は雪も降り、最低気温が零下20 以下になることもあります。

ボスニア・ヘルツェゴビナは、1991年ユーゴスラビア社会主義連邦共和国の解体に伴い、1992年に独立を宣言しましたが、ユーゴへの残留を主張するセルビア人と、独立をめざすボスニアク(ムスリム人)、クロアチア人との間で対立が起こり、1995年和平合意が成立するまでに20万人以上が亡くなるという、ヨーロッパ史上最も悲惨なボスニア・ヘルツェゴビナ紛争が起きてしまいました。(P.23)

もともと、旧ユーゴが位置するバルカン半島は、昔からさまざまな民族や宗教が交差する地域で、「ヨーロッパの火薬庫」とも呼ばれていました。第1次世界大戦も、南スラブ国家の統一をめざすハプスブルク帝国(オーストリア・ハンガリー帝国)の皇太子夫妻がボスニアを訪問中、「青年ボスニア党」に属するセルビア人青年に殺害された「サラエボ事件」をきっかけに勃発しました。

現在のボスニア・ヘルツェゴビナは、そんな旧ユーゴスラビアを凝縮した国と言ってもいいかもしれません。さまざまな民族や宗教が共存し、旧ユーゴスラビアから独立した国で、民族の名前が国名に使われていないのは、ボスニアだけです。1国でありながら、ボスニアク(ムスリム人)とクロアチア人からなる「ボスニア・ヘルツェゴビナ連邦」とセルビア人からなる「セルビア人(スルブスカ)共和国」の2政体で構成されており、サラエボなどの都市部を除けば、民族ごとに居住地域が分かれ、必ずしも国内で自由に安全に行き来できるわけではありません。



「7つの国境、6つの共和国、5つの民族、4つの言語、3つの宗教、2つの文字、1つの国」という表現で表される複合的な国家でした。

H



バニャールカ。北西部に位置するスルプスカ共和国の首都です。バニャは「温泉」をルカは「港」を表し、周辺に温泉リゾートがありましたが、紛争後は荒廃しています。

G



アドリア海沿岸の町ネウム。ボスニアで唯一海に面した街です。クロアチアと接しているため、住民もほとんどがクロアチア人です。

B



モスタルの旧市街。町全体がユネスコの世界遺産に登録されています。Dのスタ・リ・モスト(古い橋)(P.24)を中心に発展した町で、オスマン朝時代の影響を大きく受けています。ボスニア紛争では、橋の西側のクロアチア系住民と東側のボスニアクが激しく戦い、橋は全壊しましたが、さまざまな援助を受けて修復され、2004年には修復が完成しました。

D



I



トゥズラ。北東部の中心地。塩を意味するトルコ語が町の名前の由来になっています。

J



北部の小さな町。ブルチコのサヴァ川。この川はクロアチアとの国境にもなっています。

E



中央部の地域

C



ボスニアは大部分が山地で、国土の中央部にはディナル・アルプス山脈があります。サラエボは標高600mに位置する盆地です。



A



サラエボのミリャッカ川岸にある国立図書館。オーストリア=ハンガリー帝国時代に市役所として建設され、後に図書館として利用されましたが、1992年の紛争で爆撃を受け、ほぼ全焼。現在修復中です。

F



ミリャッカ川が流れるサラエボの美しい街並み。

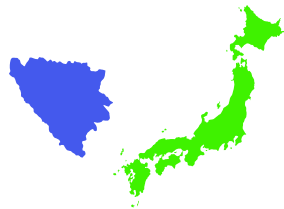
ボスニアにまつわるウソ？ホント？

① ところで、みなさんはボスニアのこと、どのくらい知っていますか？

① ボスニアの首都サラエボは、日本でいえば、北海道札幌市と同じくらい北に位置する。



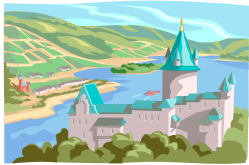
② ボスニアの面積は日本の九州と四国を合わせたのと同じくらいである。



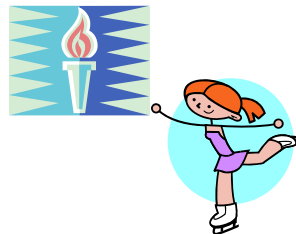
③ ボスニアでは、ボスニア語しか話されない。



④ サラエボの語源はトルコ語で、「宮殿のある泉」を意味する。



⑤ ボスニア・ヘルツェゴビナでは、かつてオリンピックが開かれたことがある。



⑥ これまで、サッカー日本代表の監督を務めた人の中には、ボスニア・ヘルツェゴビナ出身の人がいる。



⑦ ボスニアでは、民族によって自動車のナンバープレートが色分けされている。



⑧ ボスニア・ヘルツェゴビナでは、わずか6年で国旗が変わったことがある。



⑨ ボスニア・ヘルツェゴビナでは、内戦が終わってすぐに、すべての地雷が撤去された。





- 1 **ホント** サラエボは北緯43度、北海道札幌市も北緯43度を通っています。地図で見るとボスニアは、地中海に近く南のほうにあるようですが、北海道と同じ北緯ということは、意外と寒い国ということですね。
- 2 **ホント** ボスニアの面積は51,000km²。日本でいえば、九州と四国をあわせたくらいです。
- 3 **×ウソ** ボスニアで話されていることばは、ボスニア語、セルビア語、クロアチア語です。この3つのことばは、方言程度の違いしかありませんが、セルビア語はキリル文字で表されます。
- 4 **×ウソ** トルコ語で「宮殿のある平地」を意味します。
- 5 **ホント** 1984年、ボスニアがまだユーゴスラビアだったころ、サラエボで第14回冬季大会が開かれ、49カ国・地域、1,274人が参加しました。共産圏で初めて開催されたオリンピックとして注目されました。右の看板は、マスコットのプチコ君。ユーゴスラビアに生息したという伝説の狼です。よくよく見ると、ボスニア紛争の銃弾の跡が残っています。ボスニア紛争では、遺体を埋葬する墓地が足りなくなり、オリンピックスタジアムのあった地域を墓地にしたそうです。
- 6 **ホント** 前代表イヴィツァ・オシム氏がボスニア・ヘルツェゴビナ出身です。
- 7 **×ウソ** 以前はナンバープレートにムスリムは百合、セルビア人は十字章、クロアチア人はクロアチアの市松模様入りの国章というように、車の持ち主がどの民族なのか分かるようになっていました。しかし、ナンバープレートの違いで人種が識別されることで狙撃される事件があったので、それを無くすために、現在は一見どの民族でも同じようなプレートになっています。プレートを細かく観察すれば地名によってどちらの自治国に属しているかがわかりますが、走行中の細かな識別は困難なので、車での走行は以前よりも安全になったのは確かだそうです。
- 8 **ホント** ユーゴスラビアから独立した1992年に、平和と純潔を表す白地と、斜め白線で分断された青い盾とボスニア・ユリの花柄を配した図柄の新国旗を制定しました。しかし、複雑な民族構成国内のセルビア人とクロアチア人に拒絶されてしまい、数年間の内戦の後、和平協定が結ばれ1998年に現在の国旗が制定されました。長野オリンピックで初めて掲揚されました。
- 9 **×ウソ** 残念ながら、今でも地雷は埋まっています。その数約75万~100万個とも言われています。地雷によって手足をなくす人たちが今でもいるのです。



ボスニア料理ってどんな料理？

① ボスニア・ヘルツェゴビナでは、どんな料理を食べているのでしょうか？

1 下にあるのは、ボスニア・ヘルツェゴビナの代表的な料理の写真と解説です。どれがどの写真の解説か、合うものを結んでみましょう。

A



ポサンスキ・ロナツ

肉や野菜などを煮込んだ
トマト味の肉じゃが

D



ジャブラック

肉や米を詰めた
ロールキャベツ

B



ソガンドルマ

タマネギの
ひき肉詰め

E



チェバブチチ

ひき肉のソーセージを
パンの中央にはさみ、
生タマネギを添えて
いただく

C



ブルク

ひき肉、タマネギなどの
詰め物を薄いパイ生地で
巻き、鉄板で焼いた料理

F



サルマ

肉に米や野菜などを
混ぜて団子状にし、
春菊の葉などでくるんで
煮込んだ料理

2 上の写真や解説から、ボスニア・ヘルツェゴビナの料理の特徴はどんなことだと思いますか？推測して、グループで「ボスニア・ヘルツェゴビナ料理紹介」のウェブサイトページを作ってみましょう。



- ① A チェバブチッチ B ジャブラック C サルマ D ブレク
 E ボサンスキ・ロナッツ F ソガンドルマ

おいしい！ボスニア料理

ボスニアの料理は肉料理が中心で、オスマン・トルコ帝国から支配を受けたこともあり、トルコ料理に似たムスリム食です。全体的に、こってりとした味付けのものが多く、牛肉、ラム、子羊、豚肉を網焼きにしたり直火で焼いたり、煮込んだりする料理が多いですが、イタリア料理やフランス料理と並んでおいしいと言われるトルコ料理に似ているだけあって、日本人が食べてもおいしいと思う料理が多いようです。

一般的な前菜は、野菜や肉をじっくり煮込むボサンスキ・ロナッツやロールキャベツ(ジャブラック)、チーズパイやほうれん草パイなど。特に典型的なボスニア料理といえば、チェバブチッチとブレク。チェバブチッチは、「ちっちゃなケバブ」というような意味で、ひき肉のソーセージを油でひたひたのパンの中にはさみ、生タマネギを添えて食べます。チェバブチッチをヨーグルトと一緒に食べる人が多いようです。

その他、ソガンドルマ(たまねぎのひき肉詰め)は典型的なボスニア郷土料理。サルマは春菊などの葉で肉を包んで煮込む料理ですが、何の野菜を使うか、何で巻くかは地域によって異なります。

デザートには、果物やプリン、ケーキのほか、バクラヴァというお菓子やりんごにクルミを詰めてホイップクリームをのせたデザートなどをいただきます。

飲み物は、ビールやワインまたはラキアというブドウの蒸留酒をいただきます。トルココーヒーに似たボスニアコーヒーも美味です。



バクラヴァ



カフェでおしゃべりと食事を楽しむボスニアの人々

「ボスニア・ヘルツェゴビナってこんな国」ふりかえりシート

位置は？地形は？気候は？



ボスニア・ヘルツェゴビナってこんな国

ボスニアの素敵なおとこ

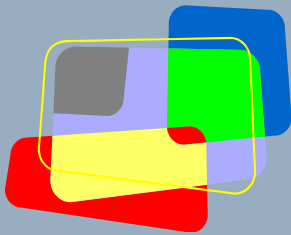
ボスニアから学んだこと





第2章

へえ～！ボスニアと日本



ボスニアの平和を応援する日本の取り組み

❓ 悲しい紛争を経験したボスニア。真の平和を取り戻すにはどうすればいいのでしょうか？



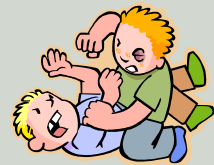
① まずは、次のカードを読んでみましょう。



ここはハート町。自然が豊かな小さな町です。みなさんは、このハート町にあるドリーム小学校の先生です。この小学校の生徒たちは、みんな仲良く、毎日一生懸命勉強しています。サッカーが大好きで、休み時間には、サッカーボールを持って運動場に駆け出していきます。とてもよい学校、とてもよい生徒たちなのですが、1つだけ悩みがあります。

実は、この町にはもう1つ小学校があるのですが、そのもう1つの小学校、ホープ小学校の生徒と10年前、あることがきっかけで大ゲンカをして以来、とても仲が悪くなってしまったのです。2つの学校の生徒はお互いできるだけ近づかないようにしているのですが、たまにどこかで会ってしまうと、必ずケンカになってしまいます。どちらの学校でも先輩から後輩へ「あの学校の生徒はひどい奴らだから近づくなよ」と言い伝えられているので、一向に仲良くなれません。入学した1年生も上級生からいろいろな話を聞くので、ホープ小学校の生徒をこわがって、町の中で自由に遊べなくなってしまいました。何か問題が起こると、お互いに相手の学校の生徒がやったと言い合っています。

こんな状況なので、最近では先生同士、親同士も仲が悪くなってしまいました。



- ② 「このままでは、町が壊れてしまう」と、みなさんたちは対策を考えることにしました。ドリーム小学校とホープ小学校の仲が悪くなったのは10年前のケンカが原因ですが、そのあと、関係がどんどん悪化しています。その原因は何でしょう？ 思いつくものをA4紙に描き出してみましょう。
- ③ ドリーム小学校とホープ小学校が仲良くなるためには②で考えた原因をなくすことを考えなければいけません。そのためには、どうすればいいでしょう？ グループで「2つの学校が仲良くなるためのプロジェクト」を企画して、模造紙にまとめてみましょう。
- ④ みんなで発表しましょう。
- ⑤ 実は、ボスニア・ヘルツェゴビナでは紛争後、カードのようなことが国レベルで起こってしまいました。（P.23）もちろん、規模は違いますし、もっと複雑でさまざまな要因が絡み合っていますが、紛争が終わっても、民族が対立し、お互いに憎しみの感情を持ち続け、いつまた衝突が起こるかわからないという状況だったのです。そんな状況を解決し、本当の意味での平和を構築するため、日本も様々な形で支援をしています。（P.18～19）
- ⑥ みんなが考えたプロジェクト企画や、ボスニアでの取り組みなどを知って、どのようなことを感じましたか？ 感想を話し合ってみましょう。



サッカーが超えた民族の壁 ~ NGO「サラエボ・フットボール・プロジェクト」の取り組み ~

日本の大学生、森田太郎氏が記した論文「サッカーによる民族融和」が第1回秋野豊賞(1998年にタジキスタンで国連平和監視活動中に凶弾に倒れた国際政治学者秋野豊氏の遺志を継いだ賞)を獲得したことをきっかけに2000年サラエボ近郊に、多民族混成少年サッカーチーム「FKクリロ」が発足しました。「クリロ」は翼という意味。クリロを運営するのがNGO「サラエボ・フットボール・プロジェクト」です。

ボスニア紛争により2つに分断した(P.9)ボスニア・ヘルツェゴビナでは、それぞれの民族が、相手の民族に対して憎悪または嫌悪の感情を持ち、お互い交流を望んでいませんでした。しかし、お互いが理解しあわない限り、また新たな紛争が噴出してしまふことは明らかでした。そこで、民族に関係なくみんなに愛されるサッカーならば交流が可能ではないかと「紛争によって引き裂かれた多民族間の絆の回復を、サッカーを通じて求めていく」という活動理念を掲げて発足したのがクリロだったので。

最初は、それぞれの地域で別々にサッカーの練習を始めました。サッカー好きの少年たちがたくさん集まってきた頃、別地域への練習に誘ってみたところ、「あの地域には人殺しがいるから行きたくない」という答え。両地域の合同練習はなかなか実現できませんでした。しかし、ある時一人の少年が意を決して、別地域の練習に参加したのです。地域の境界線を越えるときは緊張していた少年も、別地域の少年たちに温かく迎えられ、1つのボールを追いかけて練習するうちにぎこちなさがなくなっていきました。それをきっかけに、他の少年も境界線を越え始め、そうした民族間交流をさらに広げるためにクリロが開催する他のチームを招いてのサッカー大会では同じチームメートとしてプレーをするほどになりました。

ボスニアでは、サッカーのプロリーグやジュニアリーグもボスニア連邦とセルビア人共和国で別々に運営されていましたが、プロリーグやジュニアリーグの将来的統合を夢見て「フューチャー・リーグ」を開催しました。2002-2003シーズンにはプロリーグも統一されたのです。また、おとなたちの理解を得るため、活動についての意見交換会を行ったり、親子サッカー大会などを開催しました。クリロに参加できる子どもは9歳~15歳で、15歳をすぎた子どもは卒団しますが、卒団した子どもたちのOB会も結成され、クリロを中心とするコミュニティは着実に広がっています。



サラエボ・フットボール・プロジェクト ウェブサイト
<http://www.fkkrilo.org/index.html>



クリロの練習風景



日本の子どもたちとも交流



サラエボ・フットボール・プロジェクト ウェブサイトより

Enjoy Bosnia! 可能性を秘めたボスニアのエコ・ツーリズム ~ JICAの取り組み ~

ボスニアは、緑豊かな自然と多様で豊かな文化を持つ魅力的な国です。そんなボスニアの魅力を観光してもらうエコ・ツーリズムの取り組みをJICAが進めています。エコ・ツーリズムを進めるためには、観光ガイド、民宿、食材を提供する農家、お土産の手工芸品を作る住民など、さまざまな人々の協力が必要です。地域住民が民族の別なく協力し合って、自然を守りながら観光開発を実現することにより、地域住民が一丸となる機会を提供しているのです。「観光は平和の産業」と言われるように、平和で安全でなければ観光客は訪れてくれません。また、紛争によって打撃を受けた経済・産業の復興にもつながります。

専門家を派遣したり、機材や資金を提供したりして地域住民と協働で、スポーツ観光、歴史観光、農村観光、農産物・手工芸品などの地場産業の開発など、村おこしに取り組んでいます。



ODAメールマガジン http://www.mofa.go.jp/Mofaj/Gaiko/oda/mail/bn_114.html



P.19へつづく

戦後欧州最悪の紛争が終わってから10年以上経つが、紛争が残した傷跡はなかなか癒えていません。特に、民族同士のわだかまりは、教育現場にも影響を与えています。ボスニアでは、同じ学校の中で、それぞれの民族が異なる教育カリキュラムのもと、違う教科書、違うことばで勉強をし、他民族に対する排他的な教育を続けているのです。これでは、いつまで経っても真の平和は訪れません。

そこで、JICAでは教育改革を目的とするプロジェクトに取り組みました。草の根・人間の安全保障無償資金協力によって、モスタル市の高校「モスタル・ギムナジウム」に30台のコンピュータを設置し、そのパソコンを使ったクリエイティブアニメーションの模擬授業を行ったのです。模擬授業の条件は「両民族が同じ教室を使い、共に学ぶこと」。クロアチア人6人、ボスニア人5人の計11人が参加し、2日間の授業を、休むことなく全員が出席しました。最終日には、できあがった作品をみんなで発表し、互いの作品に対しての意見交換もしました。授業後も課外授業で覚えたマルチメディアの技術を使って、両民族の学生が共にモスタル・ギムナジウムの学校紹介ビデオを作製するなど、積極的な共同活動も行われました。さらに、その後、モスタル高校では、「民族共通・統一ITカリキュラム」が試行的に導入されたのです。これによって、以前は民族ごとに別々のクラスとカリキュラムで授業が行われていたIT科目が統一され、民族の違う生徒たちが、同じ教室内で授業を受けられることになりました。

「民族の融和」という点については、民族のアイデンティティにかかわる問題であるため、その是非についてはさまざまな議論があります。しかし、「人間だから異文化を好きになれないことはある。でも、その存在を理解することはできる」。これは、まさに「国際交流」が目指していることでもあります。ボスニア・ヘルツェゴビナでも、自分たちの民族を大切にしながら、別の民族の存在を認め理解できるようにすれば、本当の意味での平和が訪れることになるでしょう。



JICA 世界HOTアングル

<http://www2.jica.go.jp/hotangle/europe/bosnia-h/000145.html>

平和の種をまくコミュニティ・ガーデン 『みんな友達になればいいんだよ！』

日本の取り組みではないのですが、心温まるプロジェクトをご紹介します。

アメリカの団体American Friends Service Committeeによってつくられた、異なる民族の人たちが、ともに畑を耕し、野菜を育てるプロジェクトが「コミュニティ・ガーデン・プロジェクト」です。

このプロジェクトの目的は4つ。

- 民族の違う人たちが安心して交流できる場をつくること
- 収入が少なく生活の苦しい人々や、難民や避難民が野菜を育てることで、日々の食料を自給できるようにすること
- 戦争で心や身体に障害を負った人々へのワークセラピー
- 環境にやさしい食糧生産の方法を広めること

戦争が終わっても自分の家や町に戻れない難民がボスニアには25万人いるのですが、そうした人たちの生きる糧となっているのがコミュニティ・ガーデンです。

このコミュニティ・ガーデンを紹介した『平和の種をまく～ボスニアの少女エミナ～』という本があります。

この本の主人公エミナはナダという少女と大の仲良し。エミナはボスニアク、ナダはセルビア人で、別々の居住区に住んでいます。この庭がなかったら出会うことのなかった二人です。そんなエミナに「もう二度と戦争が起きないためにはどうすればいいと思う?」と著者大塚さんが質問したときのこと。エミナはこんな風に答えたのです。

「ナダと戦うなんて考えられない、みんな友達になればいいんだよ!」



(C) Atsuko Otsuka



(C) Atsuko Otsuka



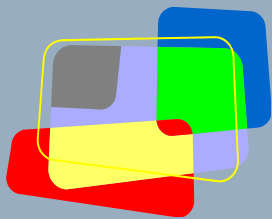
ともに生きる (大塚敦子氏) ウェブサイト <http://atsukophoto.com/index.html>

『平和の種をまく ボスニアの少女エミナ』 大塚敦子著 岩崎書店



第3章

一緒に考えよう！こんな課題



気がついたら戦争が始まっていた

① 日本に住むわたしたちにとって、戦争というのは他人事のようにですが、本当にそうでしょうか？



① ボスニアというと、どうしても内戦のイメージがありますが、みなさんにとって、紛争、戦争というのは、どんなイメージがありますか？ 紛争、戦争は身近なものですか？
「紛争・戦争とは」に続く文章を各自10個、A4の紙に描き出してみましょう。

② では、1992年から3年半にわたって繰り返されたボスニア紛争とは、いったいどんな紛争だったのでしょうか？ 資料（→P.23）を読んでみましょう。

③ ボスニア紛争が起こってしまった原因は何だったと思いますか？
模造紙を右のように4つに分けて、グループで描き出してみましょう。

ボスニア紛争の原因	紛争・戦争とは？
ボスニア紛争が残したもの	平和とは？

④ ボスニア紛争が残したものは何だと思いますか？
模造紙に描き出してみましょう。

⑤ ③と④を踏まえて、もう一度紛争・戦争とは何か、グループで描き出してみましょう。
①で考えたことと比べてどうですか？

⑥ ボスニア紛争は終結しましたが、現在のボスニアは平和でしょうか？平和ではないでしょうか？
平和の条件とは何でしょう？ 模造紙に描き出してみましょう。

⑦ 最後に、模造紙を見ながら、日本をふりかえってみましょう。
日本は平和でしょうか？ 日本で紛争・戦争が起こることはあり得ないでしょうか？
みんなで話し合ってみましょう。



P.21の解説です。



戦争・紛争の悲惨さに目をそむけず、平和社会の大切さを認識するとともに日本の平和についても考える。

戦争と紛争

国際法において、「戦争」は一般的に、国家と国家の戦いで、多くの場合、宣戦布告によって始まり講和によって終結するものであると考えられています。しかし、歴史上宣戦布告が行われず「実質戦争状態」に突入した事例も存在します。また国家以外の武装集団間での武力衝突は「紛争」と呼ばれ、たとえば民族間であれば「民族紛争」と呼ばれます。現在地球上の多くの戦いは「紛争」です。

主な紛争・対立地域



外務省ウェブサイト「探検しよう! みんなの地球」

http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sanka/kyouiku/kaihatsu/chikyuu/international_society/developing_country/developing_country_03.html

領土、地下資源、金銭、支配権など何らかの利益を求めていたり、違いを認め合えず、違うものを力で排除あるいは征服しようとしたり、自国の力をアピールしようとしたり...など戦争の原因はさまざまで、複数の要因がからみあっています。多くの場合、一部の人の利害や考え方によって戦争が起こってしまい、大多数の市民は巻き込まれてしまうのです。長く続いている戦争・紛争の場合は、当事国だけでなく、支援国が存在する場合も多くあります。

戦争・紛争は人々の生活や環境を破壊してしまうだけでなく、憎しみや悲しみを生み出してしまいます。また、ボスニア全土には、地雷が埋め込まれています。戦場だけでなく、子どもたちが遊ぶ野原や人々が歩く道などにも埋められているため、今でも地雷で命を落とす人があとを絶ちません。いまだに75万～100万個以上の地雷が残っているとされ、すべての地雷を取り除くには10年以上かかるのです。

平和な社会とは

現在のボスニア・ヘルツェゴビナは確かに紛争は終わっています。でも、本当に真の平和な社会と言えるでしょうか? では、日本はどうでしょう? 確かに戦争や紛争はしていません。不況とはいえ、世界的に見れば、経済的にも恵まれています。では、日本人々はみんな幸せでしょうか?

「平和」な社会には、「戦争・紛争がない」以外にもいろいろな要素があります。例えば、

- | | |
|-------------|------------------|
| 暴力がない社会 | お互いの要望が満たされている社会 |
| 人権が守られている社会 | 多様な価値観が認められている社会 |
| 環境破壊のされない社会 | 衣食住が足りている社会 |

など。

国際交流を進めたり、多文化共生社会の実現を目指したりするということは、そうした社会をみんなで創っていくということなのです。



ボスニア紛争～どうして起こってしまったのだろう？～

「どうして戦争になってしまったのだろう？」
ボスニア市民はつばやきます。誰も戦争などしたくなかったのに、気がついたら戦争が始まっていた。ボスニア紛争はそんな内戦でした。



旧ユーゴスラビア連邦(→P.9)を構成する国の1つだったボスニア・ヘルツェゴビナは、ボスニアクと呼ばれるイスラム教徒の人々(ボスニア戦争以前はムスリムと呼ばれていました)、セルビア正教を信じるセルビア人、カトリック教徒のクロアチア人が共存して平和に暮らしていました。旧ユーゴスラビア連邦を構成していた国の中で、民族名が国の名前になっていないのは、ボスニアだけです。他の国のように、1つの民族が圧倒的多数を占めるのではなく、お互いを尊重しながら仲良く暮らしていたのです。外見だけでは、どの民族かわからず、民族の違いを特に意識することはありませんでしたし、異なる民族同士の結婚もごくごくあたりまえのことでした。1984年には、サラエボ冬季オリンピックが開催されるなど、国家の経済も好調でした。

ところが、1991年旧ユーゴスラビア連邦が崩壊し、隣のクロアチアが独立した後、ボスニアの独立をめぐる、賛成派のボスニアク、クロアチア人と反対派のセルビア人との間に対立が起こりました。さらに3民族が領土をめぐる争いを繰り返したのです。背後では、ボスニア領土をねらうセルビア共和国とクロアチア共和国が、民族意識をことさらにあおり立てたとも言われています。「民族浄化」という言葉が盛んに使われ、自分たちの領土に他の民族が入らないよう、他の民族を絶滅させることを目的とした虐殺や虐待が行われました。サラエボの中心の通りは「スナイパー通り」と呼ばれ、市民は狙い撃ちの恐怖に絶えずおびえながら暮らしていました。市場なども襲撃され、多くの一般市民が犠牲になりました。サラエボオリンピックの会場も破壊されました。

1995年7月には、ボスニア東部のスレブレニツァで、ボスニアクの男性と少年約8,000人が虐殺されるという、ホロコースト以来ヨーロッパ最悪の事件といわれる「スレブレニツァの大虐殺」も起こりました。

遺体を収容する墓場が足りず、オリンピックのスタジアムやサッカー場が墓地になりました。ボスニア紛争では25万人以上が亡くなり、200万人以上が難民になったといわれています。



1995年11月、アメリカのデイトンにボスニア大統領、セルビア大統領、クロアチア大統領が集められ、和平協定に仮調印し、12月パリにおける和平合意正式調印をもって、ボスニア紛争は終結しましたが、ボスニアは、ボスニア連邦(ボスニアクとクロアチア人が住み、国土の51%を占める)とセルビア共和国(セルビア人が住み、国土の49%を占める)に分断されてしまいました。人々の心の中には、他民族に対するわだかまり、憎しみの感情が残り、いまだにお互い交流しようとはしません。それは、子どもたちにも引き継がれています。紛争を体験していない子どもたちまで、他民族をこわがっているのです。紛争前は異なる民族同士の結婚も多かったのに、内戦が家族を引き裂くという悲劇もたくさんありました。和平合意から10年以上が経ちますが、ボスニアの人々の心はまだ癒されていないのです。





2つの橋の物語



モスタル市街の石橋



民族融和のかけ橋

ボスニア・ヘルツェゴビナのモスタルのネレトヴァ川の西岸と東岸を結ぶこの石橋。モストはスラブ語で「橋」を意味し、モスタルは「橋の守人」を意味しますが、モスタルの町はこの石橋を中心に発展しました。

かつて、ここには木の吊り橋がかかっていたのですが、1566年オスマントルコによって石橋に造りかえられました。橋脚がなく、アーチだけで結ばれた美しい橋は、オスマン朝建築の傑作とされています。人々は、この橋を使って東西を行き来していたのです。

しかし、1993年ボスニア内戦で、橋は砲撃を受け破壊されてしまいました。内戦当初は連携していたボスニアクとクロアチア人もこの橋をはさんで戦ったのです。内戦終結後、1998年にモスタル市は橋の復元を決めました。費用が足りませんでした。ユネスコ、世界銀行からの援助や民間からの募金を集め、2004年に橋が完成したのです。日本でも「戦争の復興には巨費がかかることを認識しよう」というコンセプトのもと、多くの募金が集まりました。

2005年には「平和の象徴」である橋とモスタルの町全体が世界文化遺産に登録されました。また、石橋の礎石には、かつてトルコ語で「水の力」と彫られていましたが、現在は「Don't Forget 93 (93年を忘れるな)」と彫られた石碑が建てられています。

現在、橋の東側はボスニアク、西側はクロアチア人と住み分けがされ、お互いの往来はほとんどありませんが、旅行者は行き来することができます。

歴史とともに名前が変わる橋

1914年6月28日、サラエボのミリャツカ川にかかる橋のふもとで銃声が響きました。「サラエボ事件」です。オーストリア＝ハンガリー帝国の王位継承者であるフランツ・フェルディナント皇太子と妻のソフィアがセルビア人青年ガブリロ・プリンツィプに暗殺されたのです。その後、オーストリアはセルビアに宣戦布告、第一次世界大戦に発展してしまいました。事件後、現場には、皇太子夫妻の慰霊碑が建てられました。

終戦後、ハプスブルク帝国が崩壊すると、1918年には慰霊碑が取り壊されました。この橋はもともと川の南に住んでいたキリスト教徒の居住区「ラティンク」と旧市街をつなぐ橋だったので、「ラティンスキー橋」という名前でしたが、セルビア人青年の名前にちなんで「プリンツィプ橋」と名づけられ、彼をたたえるプレートが飾られました。ボスニアでは、ハプスブルク支配に抵抗した「英雄」と言われているのです。皇太子を狙った位置を示す靴あともあり、事件を解説する博物館も建てられました。

しかし、1992年にボスニア内戦が始まると、青年がセルビア人であったため、プレートははずされ、靴あとも撤去され、博物館は閉鎖されました。橋の名前も「ラティンスキー橋」に戻ったのです。



サラエボ事件の現場ラティンスキー橋

「地球の未来を創る」シート

平和な社会はこんな社会！！



「地球の未来を創る」ためにしたいこと

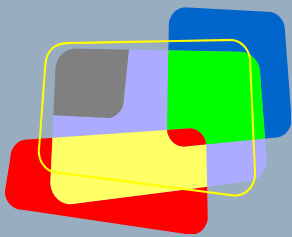
平和な社会を創るためにしたいこと





第4章

そして未来へ

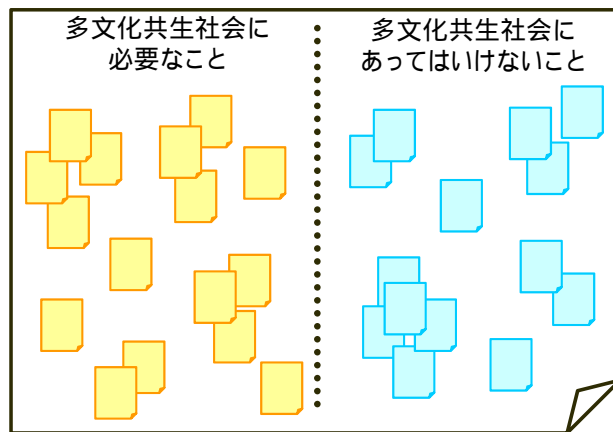


『多文化共生社会』ってどんな社会？

① 地球のみんなが一緒に生きていくということは
どうのことなのでしょう？



- ① みなさんは、『多文化共生社会』ということばを聞いたことがありますか？
「多くの文化が共に生きる社会」というのは、いったいどんな社会でしょう？
「多文化共生社会に必要なこと」を黄色い付箋紙に、「多文化共生社会にあってはいけないこと」を青い付箋紙に書き出してみましょう。付箋1枚に1項目ずつ、できるだけたくさん書いてみてください。
- ② 4～6人のグループに分かれましょう。
各グループで模造紙を用意し、半分に区切ります。左側には「必要なこと」、右側には「あってはいけないこと」を貼っていきます。みんなの意見を共有するために、1人ずつ読み上げながら貼ってください。また、他のメンバーが似たようなものを貼った時はその近くに貼ってください。



- ③ 模造紙にまとめたことをもとにグループで「多文化共生社会とは……な社会」という文章をつくってみましょう。
- ④ では、そんな社会を実現するために、私たちにできることは何でしょう？
一人ひとり、A4の紙に「私たちにできること7か条」を書いてみましょう。
- ⑤ 一人ひとりがつくった7か条をもとに、グループで「多文化共生社会を実現するための7か条」にまとめ、右のように模造紙に書いてみましょう。
- ⑥ 全員で発表し、感想を話し合しましょう。

多文化共生社会とは
な社会

そんな社会を実現する
ための7か条

- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7

号外！号外！20年後の新聞です



20年後の地域と地球はどうなっているでしょう？
どうなっているといいでしょう？

みなさんは新聞記者です。20年後の明日発行する新聞記事を書いているところです。
20年後はどんなニュースが新聞に載っているでしょうか？だれにでもわかりやすいことばでまとめてみましょう。

- 1 まずは、グループで新聞名を決めましょう。
模造紙を横にして半分に区切り、
新聞名と日付を書き込みましょう。

20xx年 月 日	20xx年 月 日

新聞

- 2 20年後地域と地球がこんな風になっている
といいなと思うことを想像し、ニュース記事に
まとめてみましょう。模造紙の右半分に地域のニュースを、左半分に地球のニュース(あるいは、ボスニア・ヘル
ツェゴビナのニュース)を書きます。

- 3 全員で発表し、感想を話し合ってみましょう。

- 4 さて、今の生活を続けていったとき、ニュースにまとめたような地域や地球が実現できると思いますか？
実現するために、自分がやろうと思うことを1つ決めて、グループで共有しましょう。

多文化共生社会

1990年の入管法改正により、主に南米からの日系人が多く日本に住むようになりました。近所や学校、職場に外国籍の方がいるのがあたりまえの状況の中でことばの問題、文化・生活習慣の違いからくるトラブル、子どもたちの教育問題、近年の経済悪化による雇用の問題などさまざまな課題が生じています。そうした課題に取り組む中で目指しているのが、「多文化共生社会」の実現です。この「多文化共生社会」とは、「国籍にも、性別にも、年齢にも、障害の有無にも関わらず、すべての人が暮らしやすい社会」と位置づけられています。愛知県が2008年にまとめた「多文化共生推進プラン」では、愛知がめざす多文化共生社会を「国籍や民族などのちがいににかかわらず、すべての県民が互いの文化的背景や考え方などを理解し、ともに安心して暮らせ活躍できる地域社会」としています。そうした社会を実現するために、2006年には、総務省から各自治体に向けて「地域における多文化共生推進プラン」が出されました。その中では、特に外国籍住民も暮らしやすい社会を創るために、次のようなことに取り組んでいくと書かれています。

コミュニケーション支援

多言語による情報提供、相談窓口の設置、日本語学習の支援など

生活支援

入居差別の解消、教育にかかる情報提供、進路指導、就業支援、就業環境の改善、外国語対応可能な病院・薬局等の情報提供、医療通訳者の派遣、健康診断・健康相談の実施、高齢者や障害者への対応、災害時の通訳ボランティアの育成、災害時の情報の多言語化など

多文化共生の地域づくり

地域住民への啓発、多文化共生の拠点づくり、外国籍住民の地域社会への参画推進など

地球的課題(グローバルイシュー)

一国では解決することが難しい、人類共通の課題を「地球的課題」「地球規模の課題」「グローバルイシュー」といいます。大きく分けると4つ、これらの課題は、包括的かつ相互的に関連しています。

地球環境

先進国の経済成長などに伴うオゾン層破壊、地球温暖化、酸性雨、砂漠化、海洋汚染、ごみ問題、野生生物の絶滅など地球規模で発生している課題です。

貧困と開発

南北問題に伴う貧困、それによる食糧不足、飢餓、衛生面での問題、教育の問題、児童労働など子どもや女性など弱者にかかる問題、持続可能でない開発による環境破壊など、地球規模の構造的な課題なので、途上国だけでは解決できません。

平和と安全

核兵器や生物化学兵器など、国境に関係なく被害を及ぼす兵器の根絶、テロの問題、地域紛争の解決と平和維持、児童兵士の問題などです。

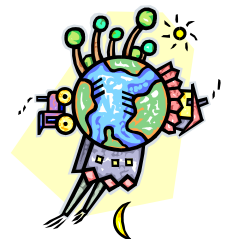
人権

民族差別や紛争などにおける難民の問題、貧困と開発のために過剰な労働を強いられる女性や子どもの問題、人間として最低限必要なものさえ保障されない極度の貧困の問題などです。

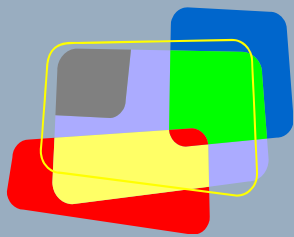
地域の課題と地球の課題はつながっている ~「持続可能な」社会を創るため~

地域の課題と地球の課題は別のもと考えてしまいがちですが、だれもが暮らしやすい「持続可能」な社会を創るという意味では共通しています。また、地域の課題を解決していけば地球の課題の解決にもつながりますし、地球の課題を解決しなければ、地域の未来もないのです。

地域の課題も地球の課題も「だれかが解決してくれる」ものではありません。途上国の多くの課題も原因を突き詰めていけば、わたしたちの日常生活につながってきます。わたしたち一人ひとりが地球の一員として、地域の一員として、自分の問題として、解決に向けて取り組んでいかなければ、次世代に課題を持ち越してしまうことになるのです。



参 考 资 料




目で見るボスニア・ヘルツェゴビナ




ユーゴスラビア崩壊の過程で激しい内戦が起こり、1995年の「 Dayton合意」で終了しますが、その際には国旗の制定にいたりませんでした。その後、和平履行会議で話し合わせ、1998年長野五輪開幕直前にこの国旗が制定されました。青と星はEU旗の影響を大きく受け、三角形は3民族の融和を象徴しています。星が並ぶ国旗は欧州ではこの国旗のみです。

●人口●


 438万人 (1991年調査。国外に多くの難民がおり、国内の人口はこれよりもかなり少ない)




 128百万人



●面積●

 51,000km²

 377,887km²

●言語●

ボスニア語
セルビア語
クロアチア語

●宗教●

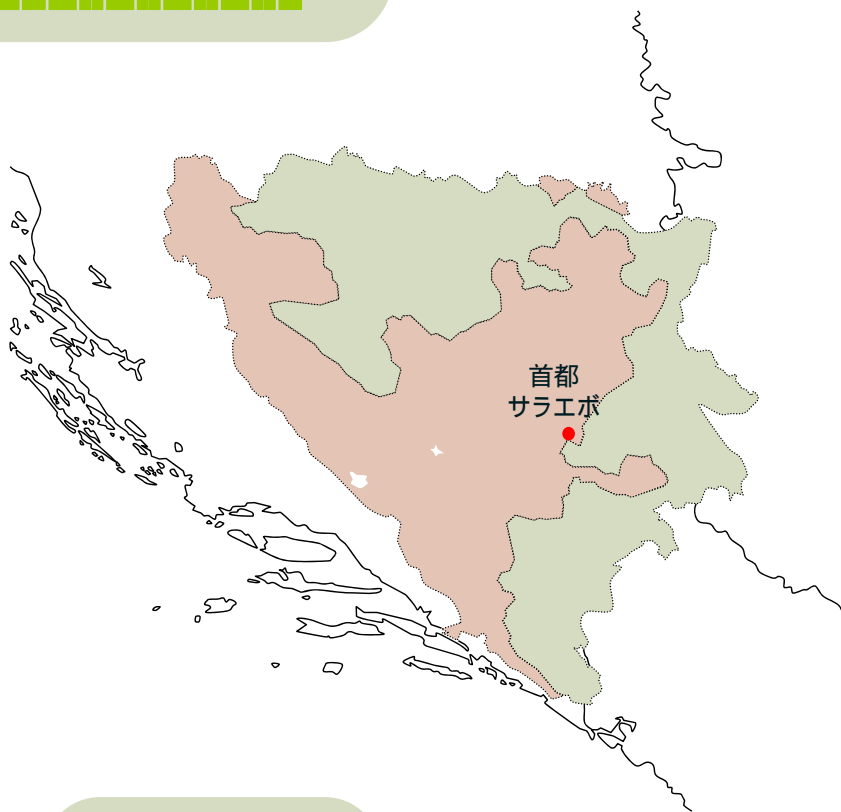
イスラム教
セルビア正教
カトリック

●通貨●

以前はドイツ・マルクが広く流通していたが、1997年7月より国内統一通貨(兌換マルク)が発行されている

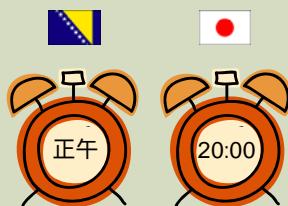
●気候帯●

地中海性気候
温暖湿潤気候
西岸海洋性気候



●日本との時差●

- 8時間



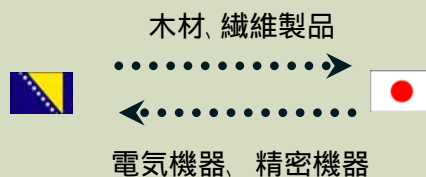
国旗: 『世界の国旗』吹浦忠正監修(Gakken) 人口・面積・首都・言語・通貨: 外務省ウェブサイト「各国・地域情勢」 日本の人口: 世界子供白書2008(ユニセフ) 日本の面積: 総務省統計局「日本の統計」 気候帯: 外務省ウェブサイト「探検しよう!みんなの地球」 日本との時差: 世界の国一覧表(財団法人世界の動き社)

●主要産業●

木材業・鉱業・繊維業・電力



●日本との貿易主要品目●



●一人あたりのGNI●

2,980米ドル(2006年世銀)



38,410米ドル(2006年世銀)



●在留邦人数●

20人(2007年4月1日)



●出生時の平均余命●

75年

82年



●5歳未満児の死亡者数●
(出生1000人あたり)

1人(2006年)



4人(2006年)



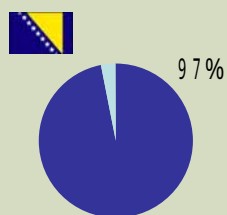
●人口増加率●
(1990～2006年)

-0.6%

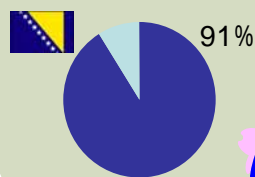
0.2%



●成人の総識字率●
(2000～2005年)



●初等教育
純就学/出席率●
(2000～2006年)



●都市人口の比率●
(2006年)

46%(2006年)

66%(2006年)



主要産業・日本との貿易主要品目・在留邦人数:外務省ウェブサイト「各国・地域情勢」 一人あたりのGNI・出生時の平均余命・都市人口の比率・5歳未満児の死亡者数・成人の総識字率・初等教育純就学/出席率:人口増加率:世界子供白書2008(ユニセフ)

ボスニア・ヘルツェゴビナ地図



地中海沿岸







参考文献・データ等の出典

外務省「各国地域情勢」

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/>

外務省「探検しよう! みんなの地球」

<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sanka/kyouiku/kaihatsu/chikyuu/index.html>

総務省統計局「日本の統計」

<http://www.stat.go.jp/data/nihon/index.htm>

ボスニア・ヘルツェゴビナ政府観光局

<http://www.bhtourism.ba/eng/>

財団法人日本ユニセフ協会「世界子供白書2008」

<http://www.unicef.or.jp/library/index.html>

国連広報センター

<http://www.unic.or.jp/country/euro/Bosnia/Bosnia.htm>

在ボスニア・ヘルツェゴビナ日本国大使館

<http://www.bosnia.emb-japan.go.jp/Ja/Tourism/life.html>

大塚敦子氏ウェブサイト

<http://atsukophoto.com/phot/column4.html>

Sarajevo Football Project

<http://www.fkkriilo.org/Index.html>

JICA 世界HOTアングルー民族の融和をめざしてー

<http://www2.jica.go.jp/hotangle/europe/bosnia-h/000395.html>

世界の料理 総合情報サイト e-food ボスニア・ヘルツェゴビナ料理

<http://e-food.jp/map/nation/bosnia.html>

『東欧を知る事典』平凡社

『バルカンを知るための65章』明石書店

『総合的学習に役立つ 世界の家族5 ボスニア』ジュリア・ウォーターロー著 今西大・今西智子訳

『地球の歩き方 中欧』ダイヤモンド社 ダイヤモンド・ビッグ社

『旅名人ブックス クロアチア/スロヴェニア/ボスニア・ヘルツェゴビナ』

外山純子・中島賢一著 日経BP企画発行

『平和の種をまく～ボスニアの少女エミナ～』大塚敦子著 岩波書店

『地雷のあしあと』こやま峰子著 小学館

『ボスニアからスペインへ～戦の傷跡をたどる～』伊高浩昭著 論創社

『ボスニアに平和を～国連の難民支援体験記～』西森洋子著 サイマル出版会



2008年度教材作成チーム


一宮市	田原市
長久手町	幸田町
扶桑町	

特定非営利活動法人 NIED・国際理解教育センター

財団法人 愛知県国際交流協会

世界の国を知る  世界の国から学ぶ

わたしたちの地球と未来

 **ボスニア・ヘルツェゴビナ** 

2009年4月

発行

財団法人 愛知県国際交流協会

〒460-0001

名古屋市中区三の丸二丁目6番1号

あいち国際プラザ

TEL: 052-961-8746 FAX: 052-961-8045

E-mail: koryu@aia.pref.aichi.jp

URL: <http://www2.aia.pref.aichi.jp>

印刷

サンメッセ株式会社

